

平成29年度 冬の学習会和歌山にて開催

和歌山城の近くにある和歌山市勤労者総合センターにて、1月27日の土曜日、近畿教育オーディオロジー冬の学習会が開催されました。時折雪の舞うなか100名の受講者が集まりました。



前半は補聴器について後半は教育現場で求められているものという内容で一日を通して中川先生からご講演を頂きました。

講演

『聴覚障害児の補聴と聴覚活用の意義
—聴覚障害児の教育現場に求められているもの—』

中川 辰男 先生
(横浜国立大学教授)

参加者アンケートより

○午前中の講演では、補聴器フィッティングについて細かく丁寧に説明いただき、とても分かりやすかったです。基礎的な知識をおさえ直すだけでなく、どのように現場へ返していくかもお話頂いたので日々の実践で見つめ直すこともできました。午後は、学校教育で求められていることをアンケート資料や心理学の視点でお話を伺い、新たな視点と再認識することができました。聴覚障害の子どもへのアイデンティティー、ろう学校だからこそできる教育・意義というものを考えさせられました。とても良い講演でした。ありがとうございます。

○ほとんど知識がなく参加した私にとっても分かりやすく要素に分解して説明して頂いたのが疎外感なしに参加することができました。今まで知らなかった言葉や考え方も知ることができました。高等部に勤務していますが、日々の授業がなんとかできるようになった所で考えや成長が止まっていたなあと反省です。手話で日常会話ができるようになることが、ろう学校の専門性ではなく、生徒の聞こえや聴力活用、発音発語についてきちんと勉強し、生徒の学習と卒業後の自立に活かせるような支援ができたかと改めて感じる事ができました。貴重なお話を聞いて感謝しています。ありがとうございました。





○「学びとは」という教育の根本の部分から、聴覚障害に関する専門的な部分まで幅広く学ばせて頂きました。特に補聴器を主体的に使いこなす、という部分が印象に残りました。その為にも環境を整えていく等できることはたくさんあると考えさせられました。本当にありがとうございました。

○難聴児のアイデンティティの形成という話の中で「聞こえる」ことは「分かること」ではないということが、日々の指導でも感じていることであり、たいへん興味深かったです。

自己評価の検査結果からも生の声が聞け、勉強になりました。

○予定より大幅に時間が短い講座で少しもったいないという印象がありました。午前中は、少し専門的すぎる内容で分かりにくい部分もありましたが、午後は全般的な話で参考になる部分がたくさんありました。中川先生のご講演ということで聴覚過敏のお話を聴けるのかと思っていたので残念でした。

○補聴器フィッティングと評価について基本的事項を分かりやすくお話していただき、今後の自分の指導の参考にしたいと思いました。聴覚情報の質と量の意味するものを学ぶことができました。音声言語、手話言語、両方の視点から指導は大事で、子どもの聴力レベルや親が子どもをどう育てたいかという希望を考慮するとかたよった教育ではなく可能性を広げる教育が必要なのだと改めて思いました。

○補聴器にかかわる基礎的な内容をはじめとして具体的に話を頂き、分かりやすかったです。専門的な用語も色々出てきましたが、ゆっくりを説明頂きありがとうございました。聞こえると理解している状況を子どもたちの様子などから自分も学習していけたらよいなと思いました。

感想の他にも、数多くのご意見や改善策を頂きました。次年度以降の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

近畿教育オーディオロジー研究協議会は設立20年を迎えます！

来年度の予定

平成30年 8月21日(火) 第20回夏の講演会・設立20周年記念行事
(ホテルアウリーナ大阪)

22日(水) 第20回夏の講習会(大阪府立生野聴覚支援学校)

10月27日(土) 秋の講演会(大阪府社会福祉会館)

平成31年 1月 冬の学習会(京都)

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒655-0013

兵庫県神戸市垂水区福田1-3-1

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校内

事務局長 谷口 信恵

TEL: 078-709-9301

FAX: 078-709-0371

メール: taniguchi-no@hyogo-c.ed.jp